

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 11月20日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700129
法人名	有限会社 圭友
事業所名	高齢者グループホーム花心家
所在地	鹿児島県川辺郡川辺町下山田1726 (電話) 0993-57-2113
自己評価作成日	平成28年7月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年8月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型のグループホームで、開設前から、地域住民との話し合いを行い、また、ヘルパー養成講座を行ったりすることで、地域に根ざした事業所となることに力を入れてきている。開設にあたっては、地域の雇用の場にもしたいと、近隣の住民を雇用し、なるべく近隣の方に入居していただくようにした。木造民家の改修のため、畳や障子、ふすま等慣れ親しんだ環境の中で暮らすことが出来、また、周囲には田畑や山が眺望でき、四季を感じながら生活できる。反面、段差があり、廊下幅も狭いため、身体機能が低下すると、住づらさを生む。母体病院とは、定期的な訪問診療や随時の受診援助、また、適時の相談等が出来、医療と密接な連携を取りながら、重度の状況になっても生活支援できる関係がある。職員は、入居に至るまでの人生と背景を理解し、花心家でゆっくり楽しく過ごせるよう、創意工夫しながら、チームでケアに取り組んでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

[理念について]  
ホーム独自の理念である「地域と関わりながら “ゆっくり” “楽しく” その人らしい生活」の支援を、人生の先輩である利用者の気持ちや尊厳、誇りを大切にしたい敬愛の気持ちで取り組んでいる。理念の共通認識や実践については、日常のケアの中やミーティング等で振り返りや意見交換を行って、理念に沿った支援に努めている。利用者及び家族、職員は、共に信頼し合い良好な関係を持ち、利用者は純日本家屋のホームで四季を感じながら居心地良く生活している。

[食事支援について]  
利用者の生活の中で食事は何よりの楽しみで関心も深いものとなっている。利用者の嗜好や身体機能に応じた形態、栄養バランス、盛り付け等に十分配慮しながら、利用者の希望を汲みとり旬の食材で日々工夫した食事を提供している。誕生会や正月、彼岸、節句、十五夜等、利用者が昔から行ってきた食習慣を取り入れ、また、花見や外食等も家族と協力して実施している。食材の下ごしらえや味見、下膳やテーブル拭きなど積極的に行う利用者もいて、食事が興味深く楽しみなものとなっている。

[職員のスキルアップについて]  
管理者は日頃から職員の意見や要望等の把握に努め、出された課題等は全員で協議して改善を図っており、職員も気軽に意見を言える信頼関係が構築された働きやすい職場環境となっている。法人母体である医療機関が全体の研修や災害時の対応等に万全を尽くしており、協力医療機関でもある為、密に連携が図られて利用者はもとよりケアに取り組む職員の安心に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	母体法人とグループホームの理念をトイレと玄関に掲示し、共有し意識付けはされているが、実践につながっていない部分がある。	ホームの理念に沿って、地域や家族とのつながりを大切にしながら利用者が「ゆっくり楽しく」その人らしい生活が過ごせるような支援に取り組んでいる。理念は目に付き易い玄関やリビングに掲示しており、職員会議やミーティング、申し送り時等に意義やケアの振り返りを実施して理念の理解と実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、米や卵など地域の方より購入している。また、運営推進会議や災害時等の協力員として地域の方に参加して頂いている。	地域の行事「キャンドルロード」、フリーマーケットに参加したり、ホームの敬老会に地域の人の踊りや楽器の演奏等の訪問を受けている。自治会長は推進会議の委員でもあるため、地域の情報は細かに得られている。高校生の実習の受け入れや認知症や高齢者福祉に関する講演依頼にも積極的に対応している。ホーム周辺の散歩時には地域の人と挨拶を交わし、時には鶏小屋をのぞかせて貰う等、また日常的に友人知人の面会や農産物の頂くなど、円滑な交流が行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	昨年度、地域の方に案内をし、主治医を講師として認知症についての勉強会を行った。定期的に行っていけるように職員のスキル向上に努める必要がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、その時々入居者の状況・サービスの実際などを報告し、助言・要望・提案等いただいた際には、職員間で話し合い、サービスに活かせるように努めている。	利用者や家族、自治会長、市担当職員、法人本部の看護部長等が参加して定期的に開催しており、利用者の現況や行事、事故等の報告を行っている。委員からは地域の高齢者に関する情報や災害時の対応に関する質問や意見が出されている。会議の内容は会議録で共有し、出された意見等には職員会議やミーティング等で十分に話し合い、サービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ケアやサービスを行う上で制度上の疑問点や実務上の助言などいただいている。運営推進会議を通じて、実情の取り組みを報告し、協力関係の構築に努めている。	市担当職員には運営推進会議に出席して貰うと共に、介護保険の更新や諸手続き及び報告等の際に訪問や電話で相談を行って、助言・指導を頂くなど密に連携を図って利用者のサービス向上に取り組んでいる。また市が主催する会議や研修等にも積極的に参加して情報や意見の交換を行うなど協力関係を築いている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束とは何か、資料を参照し、周知に努めている。必要性がある場合には、ご家族の同意を得て行っている。玄関の施錠に関しては、夜間帯のみ行っている。施設の前は車通りが多く、事故の危険性があるため門扉には、門を取り付けている。	身体拘束廃止や権利擁護については、法人全体で計画的に研修を実施し、施錠や身体拘束をしないケアを実践している。また、ホーム独自のマニュアルを整備しており、日頃のケアの中や申し送り、職員会議等で随時研修や振り返りを実施して認識を深め利用者の気持ちを尊重したケアに取り組んでいる。特にスピーチロックや言葉遣いについては、日頃から職員相互に注意し合い、また外出したがる利用者には同行する等寄り添った姿勢で安定を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	些細な気持ちの変化に気付けるように日々、働きかけ、言葉遣いに気を付けるなど意識付けや防止に努めている。今年度、学ぶ機会を設けられていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	これまでに、日常生活自立支援事業を利用して入居者がいたため、学習はなされてきた。更に学ぶ機会を設けられていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は、重要事項説明書を基に説明すると共に、疑問点や不安な点、要望などお尋ねし、安心納得していただけるように努めている。また、改定の際も説明を行っている。解約に於いては、話し合い、理解・納得が得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話連絡時に、意見や要望がないかお尋ねし、あった際には、職員間で話し合い、可能な範囲で実践するようにしている。また、日頃から話しやすい雰囲気作りに努めている。	利用者の思いや意見は日常の会話や表情、所作の見守りで把握に努め、家族の意見や要望等は運営推進会議や来訪時の対話、電話等で、利用者の状況を伝えながら聞き取っている。出された要望等は「業務日誌」や申し送り等で情報の共有を図り、迅速に協議してその人らしさを大切にサービスの改善を図っており、経過や結果については本人や家族にも適切に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度、意見、提案は同様にしている。また、ミーティング時に話し合い、反映されている。しかし、一時的で、継続・実行性に掛けているところがある。	管理者は日常的に話しやすい雰囲気作りに努めており、意見や提案を業務の中や申し送り、職員会議、ミーティング等で聞き取り、また、内容によっては個別面談も実施して把握し、出された意見等は速やかに協議して業務やサービスの改善に繋げている。また、勤務シフト作成や外部研修の参加についても可能な限り希望にそって対応するなど、信頼関係に満ちた、より良い職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的な昇給や、各種資格手当などを行っている。就業時間はなるべく定時となるようにし、サービス残業が生じないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体の教育委員会が、企画運営している研修会への参加や、外部の研修会に参加するなどし、研鑽できるように、支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム同士の交流会する機会がなく、他事業所との情報交換は思ったように図ることが出来ない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の想いを聞き出せるように混乱・不安感を和らげるような声掛け・対応に心掛け、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望・不安な事など伺い、実現出来るように努め、安心満足出来るようにし、信頼関係の構築を図っている。又、ご家族にお会いした際に、職員から話しかけて想いを汲みとれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意見を聞きながら、希望に添った援助が可能な限り出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の希望に伺いながら、出来ることは一緒に行い、意向を尊重し、一方的とならないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の過ごされる時間を大切にし、共にご本人を支えていく関係性を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会時間に制限はなく、いつでも歓迎している。友人・知人の面会も時にあり、希望に応じて墓参り等の支援を行っている。しかし、現状として、外出する機会が少なくなり、馴染みの場所との関係性は、途切れがちである。	利用開始時の聞き取りの情報や日々のケアの中で利用者の思いや希望の把握に努め、尊厳やプライバシーに配慮しながら本人の暮らしがより良いものとなるように支援している。重度化に伴い外出する機会が少なくなっている利用者に対しても、家族の協力を得ながら、本人の希望に添って外出、外泊、墓参り等に取り組み、友人知人の面会時にはお茶や場所等に配慮している。遠方の親族とは電話や手紙の取り次ぎを積極的に支援して、関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを見極め必要に応じた支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても引き続き必要に応じて、相談・支援など行う体制はとることが出来るように努めている。病院に入院中には、面会へ行き、早期退院に向け、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話等を通じ、様々なご本人の意向を伺うようにしている。困難な場合は、ご家族からの情報や生育・生活歴を基にご本人本位に検討している。	日々のケアの中で、利用者の思いや希望の把握に努め、尊厳やプライバシーに配慮しながら本人の暮らしがより良いものとなるように、家族とも連携して取り組んでいる。炊事や清掃をしたがる利用者に対しては、その日の気分や体調等に配慮しながら職員も寄り添う等、可能な限り本人の希望を尊重した支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族に伺いながら把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動・行動、一日の過ごし方を生活記録するようにし、ご本人の現状把握に努めている。また、職員間での意見交換を行っている。心身の状態は、朝・夕バイタルサインの測定をし、必要に応じて母体の主治医、看護師と連携を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの要望などを基に主に計画作成担当者が課題検討を行い、介護計画の作成をし、職員で検討、共有している。	本人・家族の意向及び主治医を始めとする関係者からの情報を基に意見交換して、利用者の状況に応じた暮らしが出来るように介護計画を作成している。ケアの状況は「業務日誌」や「生活記録」「入居者状況チェックシート」に詳細に記録され、モニタリングも毎月実施して介護計画に反映させている。利用者の状況変化に対しても実状にあった計画の見直し及び修正を適切に行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録へ記入し、情報を職員間で共有し、日々のケアの実践に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・散髪・墓参り・自宅への外出・外泊などご本人・ご家族のニーズに可能な限り臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを又えしている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力を得ながらご本人の出来ること、やりたいことを安全に配慮したうえで出来るようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院の主治医による定期的な訪問診療、他院を含めた定期・臨時受診を通して医療支援を行っている。	利用者の既往歴や受診の状況は十分に把握されており、本人や家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、殆んどの利用者が協力医療機関の訪問診療を受けている。その他専門医療機関への通院に際しては家族及び職員が同行しているが、家族が県外居住の場合など、状況によっては職員が対応している。受診の結果は利用者毎に詳細に記録されており、医療機関との連携体制も十分で、家族との情報交換も適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制加算に伴い、毎週1回の看護師来所の際、相談し助言を戴いている。また、母体病院の看護師に相談し、速やかに主治医に報告し、助言を受けたり、必要に応じて受診している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合には、可能な限り、毎日見舞い、治療の経過などを尋ね、情報交換や相談を行い、早期退院が出来るように働きかけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重要事項説明書に終末期への対応について説明文を明記し、同意していただいている。重度化した場合には、主治医より直接、ご家族へ説明していただき方向性の検討をその都度行っている。</p>	<p>利用開始時に重度化や終末期における介護についての対応を「重要事項説明書」等で説明して理解を得ている。重度化した時点で主治医より病状の説明があり、家族の意向に添って可能な限りの介護に取り組んでいるが、重度化及び終末期には特養入所や入院への移行希望が殆んどで、これまで看取りの実施はない。今後看取りの希望があった場合には、医療機関や訪問看護との連携及び介護技術の向上などに努めて体制を構築する意向である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器・自動通報装置の取り扱いを災害時避難訓練の際等に、全職員が体験、様々な想定をし、訓練している。地域の方からの応援が頂けるように自動通報装置に連絡先を登録している。また台風の際には、状況に応じて、母体法人の運営するGHへ避難する体制をとっている。	夜間想定を含む火災や風水害時の通報、避難、消化の訓練を消防署や自治会長、地域住民も参加して年2回実施している。自動通報装置には、地域住民にも即通報されるシステムが組み込まれるなど協力体制が構築されている。災害発生に備えての飲料水や食品などは法人本部で備蓄しており、懐中電灯やカセットコンロ、ラジオ等も整備されている。夜間の災害に備えて、屋外の避難経路には足元ライトも設置されるなど安全性にも配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人生の先輩であり、尊敬し敬う心を持ち、日々、不快になるような言葉遣い・介助・仕草とならないように気を付けている。</p>	<p>利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応を行わないよう、常に人生の先輩として敬愛の気持ちで日々支援に努めている。法人全体で研修を実施すると共に、日頃のミーティングや支援の場で振り返りや話し合いを行う等、常に意識して実践に努めている。特に言葉づかいについては職員間で注意し合う等、適切な対応に取り組んでいる。個人記録の取り扱いや居室、浴室、トイレについてもプライバシーの確保に配慮がされている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ご本人の意思・意向を表現しやすい雰囲気作り心掛け、表現される機会を待ち、時には尋ねながら自己決定できるように働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人の希望を伺いながら可能な限りご本人のペースに合わせてご本人の希望に添えるように心掛けてはいるが、職員の都合が優先されることが多い。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>モーニングケア・服のコーディネートに気を配り、ご本人と可能な限り一緒に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には、料理の味見をしていたり、助言をして頂く事もある。個人に応じた食事形態にし、彩り・盛り付けなど工夫し、目でも楽しめる食事を心掛け準備している。片付けについては、お盆拭き、台拭きをして頂いている。	献立表の作成は無いが、栄養バランスに配慮しながら冷蔵庫にある食材や家庭菜園で取れた旬の野菜等を活用して、その日召し上がりた料理の提供に努めている。食事形態やアレルギー、嗜好、盛り付け等に留意し、優しい音楽を流しながら食事を楽しみ、また利用者も下ごしらえや下膳を手伝う等、食に対する関心が湧くように取り組んでいる。御節や彼岸のぼた餅、節句等の行事食や手作りのおやつ等、食事がより楽しみとなるような工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前日迄の献立を見ながら入居者の希望を取り入れ、偏らないようにバランスに気を付けている。また、個人に合わせた食事形態にし、食事摂取量が少ない場合には、栄養補助食品等で補食している。水分に関しては、好みのものや飲みやすい物を工夫し、時間にとらわれずに提供している。脱水対策で経口補水液を利用する場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に義歯ブラシ・舌ブラシなど使用し、個人の口腔状態やご本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄サインを見逃さないように声掛け・案内するように努めているが、時間毎の案内となりがちで個々のパターン把握まで至っていない。また排泄意があっても立位が困難で、トイレでの排泄支援が出来ていない事もある。	利用者の見守りやバイタルチェック表で、 <del>各</del> 各人の排泄パターンの把握に努め、昼間は可能な限りトイレで排泄できるように支援している。職員は利用者個々に合った介護用品やケアの方法を話し合い、介護計画に反映させて改善に努めており、トイレ誘導や汚した衣服の交換に際しては、特にプライバシーに配慮した対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談して、必要に応じて、内服薬・坐薬など使用しているが、水分補給をこまめに促したり、食物繊維を多く摂れるようなメニューを工夫している。乳製品や乳酸菌飲料も勧めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日・時間帯が決まっているが、入居者の希望や状況に応じて柔軟な対応をしている。	入浴は週3回が基本であるが、排せつの失敗等には即、清拭や入浴で清潔を保持し、予定外の入浴希望者にも柔軟に対応している。個浴で介助しており、利用者の好みの温度や時間に配慮してゆっくりした気分で楽しんでもらうよう、身体の異常の観察や皮膚疾患の手当も行ないながら親密なコミュニケーションの場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	下肢の浮腫が見られる際には、挙上したり、足浴をするなどしている。また、ご本人の浴い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更がある際には業務日誌に記載し、ミーティングで情報共有に努めている。また用量・用法が確認できるように薬剤情報を各個人のファイルに綴っている。不明瞭な点は、薬剤師に尋ねるようにしている。薬に関しては、疾患と関連して理解を深めていくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎に行事計画し、気分転換を図れるように働きかけている。歌ったり、軽体操をしたりしながら楽しい時間が送れるように支援し、役割作りとしては、お盆拭き・洗濯物たたみなど出来るところを一緒に行うように心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	デイケア利用・病院受診以外での日常的に外出する機会は少ない。ご本人の希望に添って、個別に散歩・墓参り・買い物など外出支援するように努めている。	身体機能の低下により、外出希望の利用者は減少してきているが、本人の体調や意向を確認しながら近隣の散歩や買い物、病院受診、帰宅、外食、初詣、花見（塘池公園、お諏訪公園）など季節行事や日常的な外出の機会を家族と協力して多く作り、楽しく外出できるように支援している。利用者の身体能力に応じてリフト車や車椅子等も活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さは理解しているが、事務所で預かりし個々の必要に応じて物品の購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて、支援している。贈り物があつた際などには電話をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事食や正月・節句など季節を感じるような飾り付けをしたり、花を飾るなどし、空間作りは意識し、居心地よく過ごせるような工夫を試みている。	和風の大きな古民家を活用しているホームで、段差の解消や避難経路等に様々な工夫や改造がなされて、快適な生活環境を整えている。建具は障子や襖が多く、廻り縁には大きな掃出し窓が設置されており、広いリビングにはテーブルやテレビ、仏壇等が置かれ、随所に利用者の作品や生花も飾られ、家庭同様に落ち着いた雰囲気が醸し出されている。園庭には多種の樹木や花、野菜が植えられ、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。清掃や空調、防臭等にも細かに配慮されて居心地良い環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭いこともあり、難しい面がある。安心できる場所に案内したり、気の合う方々と楽しめるように席の配置など配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用していた物を持ち込み、家族写真などを飾り、安心感が生まれ、居心地良く過ごせるように配慮している。	畳部屋とフローリングの2種類の居室は広さも異なっており、各利用者の生活習慣や身体機能、希望等に応じて部屋割りをしている。全室掃出し窓と縁側があり襖、障子仕様の居室には、ベッド、エアコン、昔からのダンス等が備えてあり家庭同様の落ち着いた雰囲気で利用者に喜ばれている。家族写真や使い慣れた整理棚、食器、小物等が持ち込まれて、その人らしいレイアウトで和やかな空間となっており、清掃や整理整頓にも十分配慮されてる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープを設置している。危険性がある場合には、職員間で共有し、必要な支援を講じるようにしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない